平成28年度保安力向上センターの事業計画

1. 基本方針

センターの3年間の活動を総括し、対応すべき課題を明確にしたうえで会員企業の安全の取り組みを支援していく。

2. 「保安力評価システム」の普及

(1) 「保安力評価システム」の充実

使いやすいシステム、広く活用されるシステムを目指して、以下の活動に取り組む。

① 「保安力評価システム」の充実

新たに整備した保安力評価システムVer 2.0と現在のVer 1.5との評価の連続性を検討し、バージョンが変わっても改善の程度が評価できる変換システムを構築する。

② 「評価結果の統計処理システム」の構築

保安力評価システムVer 2.0に対応した、評価結果の統計処理システムを構築する。

(2) 「センター評価（第3者としての評価）」の推進

① センターの評価体制の強化

昨年度はセンターの評価体制上の問題から、センター評価の依頼に応えられないケースもあったため、センター評価員の養成を加速させる。勇退する保安力評価推進委員、運転・保全・保安の経験豊富なOB、更には安全文化に造詣の深い現役も対象に、センター評価の研修を通して数名の評価員の増員を目指す。

② 有償のセンター評価

現時点でセンター評価の依頼があったのは、20事業所23工場である。前年度並みの26工場の保安力評価を目指す。

今年度は2回目の評価となる工場もあり、前回評価からの改善の程度を把握し更なる改善に向けた提言を行う。

③ センター評価マニュアルの充実

3年間の活動を総括し、センター評価の進め方を改善する。

④ 改善の支援

日本化学工業協会のご好事例集、受託事業で収集したご好事例、並びにセンター評価で収集したご好事例と保安力評価項目とを関連付けて、弱みの改善に参考となるご好事例を提供する。

⑤ 海外版の保安力評価システムの検討

会員企業が東南アジアに展開する工場を対象に、保安力評価のニーズ等実態を調査し、海外版の保安力評価システムを検討する。

(3) 新会員の募集

学会のホームページや講演会等で積極的にPRし、普及会員数社の加入を目指す。
また支援会員に関しても石油化学、化学、石油精製業界に働きかけ、数社の入会を目指す。(現時点の会員数：支援会員22社、普及会員14社)
現在普及会員として2社(NSスチレンモノマー㈱、荒川化学工業㈱)より入会申し込みがあり、手続中である。

3. 保安に関わる技術者の養成

(1) 保安力評価推進委員の力量向上

保安力向上に関する研修、自社の保安力評価の推進や改善活動の情報共有、並びに評価システムの改善や拡充の議論を通じ、安全活動の中核的人材の養成支援に取り組む。

(2) 自己評価員の養成

保安力評価システムに対する理解を深め自己評価の精度の向上を目指して、自己評価員の養成に取り組む。

化学工業日報社とタイアップし、保安力評価の講習会を開催する。第2回目の講習会を、2月から6月にかけて5回シリーズで開催中であり、下期にも予定している。

4. 保安情報の共有化

(1) 保安情報の提供と利便性向上

- ・センター評価の解析結果およびセンター評価等を通して収集した良好事例を定期的に会員に提供し、保安力向上の取り組みを支援する。具体的には、26、27年度に実施したセンター評価の結果を統計処理し、収集した良好事例とともに会員に提供する。
- ・センター評価の結果を総括し、業界に共通する気付き事項と改善の提言について発信する。

(2) 内外機関との連携

- ・産業技術総合研究所とタイアップし、保安力評価データの解析を進め保安力評価システムの充実を図る。
- ・日化協、石化協、石連と企業の自主的な安全活動に関して連携し、保安力向上の取り組みを行う。
- ・大学と連携し、有識者の指導および研修として学生の保安力評価への参加を図る。
- ・フランス産業安全文化研究所(ICS)と契約を締結し、ICSの持つノウハウ、教育カリキュラムを活用する。

5. その他の取り組み

- (1) 企業の自主的な安全活動に期待している経済産業省と定期的な意見交換を実施する。
- (2) 安全工学グループに参加し、日本の安全に貢献していく。